

卒業生の言葉

厳しい冬の寒さも徐々に和らぎ、木々の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。本日、お忙しい中、私たちのためにご臨席くださいました皆さま、誠にありがとうございます。

いま思い返してみると、中央聴覚支援学校高等部で過ごした三年間は、あっという間でした。入学当初は、新しい場所で初めて出会う方々との学校生活に緊張がなかなか解けず、毎日が不安でいっぱいでした。戸惑うこともありましたが、先生方や先輩方に優しく導いていただき、新しいスタートを切ることができました。

心に残る行事もたくさんありました。文化祭では、この舞台上、四人で劇を披露したことが、今も鮮やかに心に残っています。少人数で協力し舞台を作ること、言葉と手話を合わせて覚えることは、とても大変でした。しかし、幕が下りる瞬間に、観客席から大きな拍手をいただき、努力を重ねて何かをつかみ取る素晴らしさを学びました。

また、修学旅行ではたくさんの感動を体験しました。東京方面での様々な体験は心が躍るような楽しいものばかりでした。天候の影響で一泊延長することになった時はとても驚きましたが、みんなで過ごした時間はとても楽しく、かけがえのない思い出になりました。予定通りにいかないことも笑顔で乗り越えられるということ、お互いに協力すればどんな状況も楽しめるということを学びました。

これまで私たちを支えてくださった先生方、家族、そして友人の皆さま、皆さまの支えがあったからこそ、私たちはここまで成長し、卒業の日を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

在校生の皆さん、伝統あるこの中央聴覚支援学校を誇りに思い、皆さんが素晴らしい歴史を引き継いでくださることを願っています。これから私たちは、それぞれの未来に向かって歩んでいきます。春の暖かい陽射しのように、新たな挑戦に希望を持って、前向きに進んでいきたいと思えます。

最後に、この学校と出会えたこと、そしてここで過ごしたすべての日々心から感謝して、卒業生の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

令和7年 3月 3日 卒業生代表